

本時のキー課題

14:20 授業者が本時の目標を説明



授業者の2人が、「様々な場面に合わせたパスの質を高めよう」と、本時の目標を発表した。攻撃の選択肢の少なさを現状の課題に挙げ、改善策として、ボールキープ時やサイド攻撃時のパス練習を行うと説明。試合前やハーフタイムに、チーム内で戦術を確認することも注意点に挙げた。

14:55 先生と授業者がミーティング



前半が終わると、白川先生と授業者が試合を振り返った。「サイドが使えていない」と課題を挙げた授業者に、「それを打開するためには、どうすればよい？」と白川先生。授業者は、「全体的にポジションを広げて、パスコースを確保する」という改善策を提案し、それを各チームに伝えた。

しらかわ・たつや 教職歴 13 年。同校に赴任して 6 年目。入試広報委員長。保健体育科主任。東京都の私立高校などを経て、現職。

学校概要

◎鹿児島中学校として開校。2002 年度、中高一貫校となり、現校名に改称。20 年度、国際バカロレア中等教育プログラム (MYP) 候補校に認定され、23 年度の認定校承認を目指し、改革に取り組んでいる。校訓は、「克己・礼節・飛躍」。

◎設立 1983 (昭和 58) 年

◎形態 全日制/普通科/共学

◎生徒数 1 学年約 50 人 (高校)

◎2022 年度入試合格実績 (現役のみ) 国公立大は、鹿児島大などに 3 人が合格。私立大は、東北福祉大、国際医療福祉大、中央大、日本大、名古屋芸術大、立命館大、近畿大、梅花女子大、福山大、久留米大、筑紫女学園大、長崎国際大、崇城大、宮崎国際大、鹿児島国際大などに延べ 26 人が合格。

本時の概要

〔対象/教科/科目〕2・3年生/体育/選択球技(サッカー・バレーボール・卓球から1種目を選択)
 〔分野・単元〕多様性を認め合う学び(全20時間のうちの12時間目。P.47に単元の指導計画を掲載)
 〔育成を目指す資質・能力〕技能、思考力、判断力、表現力、主体性、協働性
 〔学習内容〕「選択球技」では、2・3年生各1人が持ち回りで授業者となり、2人で相談して授業計画を立て、それに沿って授業を進める。本時のサッカーでは、授業者が本時の目標と練習の進め方を生徒に説明してから、パスを練習。試合を行い、練習通りにできたかを確認した。

主 主体的な学び
 対 対話的な学び
 深 深い学び

主体的・
 対話的で
 深い学び

授 業 実 践

体育

生徒が授業者となり、授業を計画・実施。

その過程で問題解決のプロセスを学ぶ

鹿児島県・私立鹿児島修学館中学校・高校 白川達也



14:43 2チームに分かれて試合を開始

主
対

2チームに分かれて試合を行った。チーム内で話し合い、センタリングをする役など、ポジションを決定。「練習通りに、サイドでパスを交換して攻めていこう」と、戦術を確認して試合に臨んだ。しかし、試合の前半は、ピッチ中央でのボールの奪い合いが続き、パスはなかなかつながらなかった。

14:25 パスとセンタリングを練習

主
対

授業者が、手本を見せながら練習方法を説明。生徒は、手本を参考に、ヘアでパス練習を5分間行った。次に、パス→センタリング→シュートによるサイド攻撃の練習を、3人1組で5分間行った。生徒は、本時の目標である「パスの質を高める」ために、積極的に動いていた。

15:06 試合の振り返り

主
対
深

全員で試合を振り返った。授業者は、「後半に戦術を修正してから、ボールの回り方がよくなった」と総括。白川先生が、「後半は、よいシーンが増えた。全員が本時の目標を理解して練習をしていたパスが、試合で生きていた」と褒めると、生徒から拍手が起こった。

14:57 試合の後半を開始

主
対

白川先生が、「前半の反省を踏まえて、ポジショニングを考えることと、コミュニケーションを取ることが大切だよ」と、生徒にアドバイス。生徒は声をかけ合い、味方の位置をよく見てポジションを広く取るようになり、サイドへのパスが出るようになった。

● 私が目指す授業

競技活動を通じて、
実生活で生きる概念を学ぶ

本校は、2023年度の国際バカロレア（以下、IB）の認定校を目指し、18年度からMYP（*）を導入しています。その実践にあたり、IBの理念を知ったことで、私の指導観は一変しました。IBでは、すべての教育活動において、生徒が実社会で活用できる思考力や人間力などを身につけることに重点を置きます。一般的に、体育の授業は、競技技術が向上するように練習し、実技試験で技術の到達度を評価しますが、IBでは、体育の授業もIBの重点に沿って、実生活に活用できる力を育成することが求められます。

そこで私は、生徒が練習計画を立てたり、試合の作戦を練ったりと、競技を通じて探究活動を行い、時間・空間の捉え方や、コミュニケーションの大切さなどを理解できるように授業づくりを行っています。例えば、バスケットボールでは、パスがうまく回らない時に、いくつかある問題の中で、「味方が近すぎて、空間を生かしていない」ことを重要な問題

* 国際バカロレアは、グローバル化に対応できるスキルを身につけた人材を育成するための、生徒の年齢に応じた教育プログラムで、MYPは、中学1年生～高校1年生対象のプログラムとなる。

として捉えたのであれば、「ポジションの修正」という解決策までを生徒同士で考えさせます。問題解決のプロセスを、教師が示すのではなく、生徒主体で学ばせるのです。

22年度からは、2・3年生の合同授業を始めました。学校行事でリーダー役となる2・3年生の交流を促すことで、学校行事がさらに活性化するのではないかと期待しています。

●私の発問・課題設定の観点
生徒が授業者となり、
授業のすべてを取り仕切る

授業は、1・Bで重視する資質・能力である批判的思考力や対人能力、自発性などを伸ばすため、生徒主体で行います。

「選択球技」では、生徒はまず、自分が取り組みたい種目をサッカー・バレーボール・卓球の中から選び、希望種目を聞くアンケートに答えます。次に、アンケート結果を基に生徒同士で話し合っって各種目の人数を調整し、各自が取り組む種目を決めます。毎回の授業は、種目ごとに、2・3年生各1人が持ち回りで務める「授業者」が進めます。授業終了後、次の授業者が2人で相談して授業計

画を立て(図)、授業前に、私と一緒に見直します。授業計画では、目標を達成するための内容になっているかどうかに着目します。例えば、目標が「パスの質を高める」なのに、シュート練習ばかりなど、目標と練習内容が食い違う場合は、「この練習で目標を達成できると思う?」と問いかけることで、生徒が問題に気づき、修正できるようにしています。

授業では最初に、授業者が本時の目標と練習の進め方を説明します。その際、生徒間で目標をしっかりと共有できているかどうかを見て、共有が十分でなければ、授業者に声をかけます。また、練習の途中、目標への意識が低いように見える生徒がいる時は、授業者に「今のままでいいかな?」などと問いかけ、問題の解決策を考えさせるようにしています。本時のサッカーでは、どの生徒も最後まで目標を意識していることが見て取れました。その要因は、パスがうまく通らなかった場合を想定して、授業計画を立てていたことにあると思います。練習したパスが試合の前半では通らなかつたことを受け、授業者は「全体的にポジションを広げて、パスコースを確保する」と、事前に考えていた指示をハーフタイム中に

図 本時の授業計画(抜粋)

本時の目標	様々な場面に合わせたパスの質を高めよう		実施日: 10月7日(金)
0	集合・準備・点呼	武道 礼拝 説明	本時の練習①(図で説明すべきこと・留意点等)
5	チームで体操	()が中心	2人組をつくって 最初、パスを3回2回ずつの足元でパスを 5分×5分、1分50秒の練習
10	短い距離(2-3m)でのパス交換	トレ① ()のパスの出し手の動きと受け手の動きの理解を共有する	① 1人組 相手足元でパス交換 1分50秒、3分20秒、5分30秒の練習
15	サイドクロス攻撃からのシュート練習	休憩・振りかえり	② 1人組でパスを2回2回ずつの足元でパスを 2分30秒、3分30秒、5分30秒の練習
20	チーム内で戦術の検討・確認	試合(前半)	本時の練習②(図で説明すべきこと・留意点等)
25	試合(前半)	※トレーニングの成果が一瞬でもだせるように意識	
30	休憩・戦術の見直し	試合(後半)	
35	試合(後半)	※トレーニングの成果が一瞬でもだせるように意識	
40	整理運動・全体振り返り	片付け	
45	片付け	集合・連絡・解散	
50	集合・連絡・解散		

授業者が作成した本時の授業計画。前時の反省を踏まえて目標を決め、練習内容や時間配分などの計画を立てた。授業後には、全体を振り返り、目標の到達度や次時に向けた改善点などを記入して、白川先生に提出した。
※学校資料を抜粋して掲載。

出しました。そのように、コミュニケーションを取り、全員で目標を共有し直したことが、後半のよいパス回しにつながったと思います。

学習評価は、生徒の自己評価や教師の行動観察のほか、単元末に課す総括レポート(800〜1200字)で行います。レポートでは、技術力を高めるためにチームで話し合った内容や、また、パスがつながらないなどの課題に対して、どのような授業計画を立て、練習の成果をどうやって検証したのか、そして、それを日常生活や将来にどう生かせるのかといった点についてまとめさせています。

●成果と展望
体育での学びが、他の場面で
どう生きるのかを検証したい

前期の初めは、「スポーツを楽しんでほしい」と、自由に活動させました。生徒は試合ばかりしていたのですが、同じミスを繰り返すことに課題を感じ、次第に練習を行うようになりました。そこで私は、「その練習の目的は何?」などと声をかけ、生徒に練習の意味を考えさせるようにしました。すると生徒は、課題に基づいた授業計画を立てるようになりました。生徒に授業アンケートを取ったと



このころ、85%の生徒が「学習内容についてもっと深く学びたくなった」、94%が「級友や先生とコミュニケーションを取る事ができた」と、肯定的な回答をしており、生徒が主体的に探究し、対話を積極的にやっている姿が見て取れました。

今後は、体育の授業での学びが、他教科の授業や学校行事などにもどう生きるのかを検証したいと考えています。生徒からは「体育の授業で行ってきた、問題を複数の視点で考えることが、数学の問題を解く際に役立つ」となどの声が挙がり、手応えを感じています。例えば、学校行事で先輩後輩と活動する際に、体育の授業で学んだ、目標を共有するための声かけや周囲の動かし方、時間配分などの経験がどう生きているのかを見取りたいと思っています。

単元の指導計画

【教科・科目】体育・選択球技（サッカー・バレーボール・卓球から1種目を選択） 【分野・単元】多様性を認め合う学び 【設定時数】Ⅰ期10時間 Ⅱ期10時間 【単元目標】生徒が運動とかがかわる中で得た理論と、生成した動きの意味や効果を、言葉で他者に伝える表現力・対話力を高めること。

時数	学習内容	身につけさせたい資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> Ⅰ期オリエンテーション 希望種目のアンケートの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のねらいを理解し、自分が取り組みたい種目を選択できる。 <p>【思考力、判断力】</p>	<ol style="list-style-type: none"> 単元のねらいと、授業の進め方を説明する。 体育委員を中心に生徒同士で話し合い、アンケートを作成して、希望の種目を調査する。 	<p>【主体的な学び】希望種目を聞くアンケートを作成する際、生徒一人ひとりが議論に参加できるように、スライドで趣旨を説明する。【対話的な学び】他学年の生徒と積極的に集団行動ができるよう、体育委員に議論のファシリテーターを務めさせる。【深い学び】異学年で学ぶ理由や、授業を活性化するための方法を、生徒に問いかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 希望種目を聞くアンケート
2	<ul style="list-style-type: none"> 種目の決定 運営方法の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 各種目の希望者数のバランスを見て、生徒同士で話し合って人数を調整することができる。 全員が気持ちよく授業に取り組むためのルールを作ることができる。 <p>【多様性、協働性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> 前時に取ったアンケートの結果を発表する。 各種目の希望者数のバランスを見て、生徒同士で話し合って人数を調整し、各自の参加種目を決める。 種目ごとに集まり、ルールを作成する。 	<p>【主体的な学び】各種目の人数を調整できるように、人数のバランスを考えることなどを助言する。【対話的な学び】各種目の人数にばらつきが出て、取り組めない種目が出ないように確認させる。全員が気持ちよく授業に取り組むためのルールを、生徒に作らせる。【深い学び】種目ごとの人数のバランスやルールが必要な理由を問いかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 種目確定に至るまでの生徒の議論の様子
11	<ul style="list-style-type: none"> Ⅰ期振り返り Ⅱ期オリエンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅰ期の授業内容について、よかった点や改善点を見いだすことができる。 Ⅱ期の学習内容のねらいについて理解することができる。 <p>【知識、思考力、表現力】</p>	<ol style="list-style-type: none"> 全員が集まり、Ⅰ期の各種目での活動内容について、よかった点や改善点などを話し合う。 Ⅱ期の単元のねらいと、授業の流れを説明する。 	<p>【主体的な学び】「授業者の役割を果たすことができたか」「どのような力が身につけようか」と問いかける。【対話的な学び】自己表現力を高めるためにはどうすればよいかを、他者との話し合いを通じて考えさせる。【深い学び】「授業者としてどのような学びがあったか」「自分の考えをどのように他者に伝えることができたか」と問いかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個人振り返りシート
12 19	<ul style="list-style-type: none"> 種目ごとに活動 	<ul style="list-style-type: none"> 授業者は、各自の技術力が上がるよう、目標を立て、練習内容を計画し、授業を進めることができる。 その他の生徒は、授業者が立てた目標の達成に向けて、主体的に活動することができる。 <p>【技能、思考力、判断力、表現力、主体性、協働性】</p>	<ol style="list-style-type: none"> 授業者が、本時の目標と練習の進め方を説明する。 適宜、授業者同士や授業者と教師が話し合い、練習内容を修正する。 授業者は、授業の実施レポートを作成して、教師に提出する。 	<p>【主体的な学び】授業者が立てた授業計画を、他の生徒に教授できるように、補助する。【対話的な学び】生徒が授業者が立てた目標を、他の生徒が常に意識できるように、生徒間でコミュニケーションを取るよう、声をかける。【深い学び】授業計画は適切に立てられているか、目標を達成する授業内容となっているか、全員が授業目標を把握できているか、安全が確保されているかに留意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の取り組みの様子 授業者の「本時の授業計画」
20	<ul style="list-style-type: none"> Ⅱ期振り返り 総括レポートの作成 全体総括 	<ul style="list-style-type: none"> 単元を通して各授業を振り返り、学習したことを将来や日常生活にどのように生かすことができるかをレポートにまとめることができる。 <p>【知識、思考力、表現力】</p>	<ol style="list-style-type: none"> 全員が集まり、各種目での活動内容について、よかった点や改善点などを話し合う。 単元を通して学んだことや、それを将来や日常生活にどのように生かしていくかをレポートにまとめる。 	<p>【主体的な学び】「授業者の役割を果たすことができたか」「どのような力が身につけようか」と問いかける。【対話的な学び】本単元での学びを、将来のどのような場面で生かすことができるのかについて考えさせる。【深い学び】「授業者としてどのような学びがあったか」「自分の考えをどのように他者に伝えることができたか」と問いかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 総括レポート

※白川先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。単元の指導計画の全20時間分は、ウェブサイト「VIEW next ONLINE」(https://view-next.benesse.jp/) からダウンロードできます。「TOP →学校教育情報誌『VIEW next』 →高校版バックナンバー」をご覧ください。